



# FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 62 号 2016.7.26

## FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 十和田農場から

### デントコーンの不耕起播種

十和田農場では、平成 25 年度からデントコーンの生産をヤンマーアグリジャパン株式会社によるコントラクターに移行しました。かつての耕起・整地後のコーンプランターによる播種とバンカーサイロでのサイレージ生産から、不耕起播種機での播種と細断型ロールベアラーによるロールベールパックサイレージでの収穫となりました。

これにより、職員の労力の低減のみならず、サイレージの変敗によるロスや給与の際の不便さが格段に改善されました。また、不耕起播種機や細断型ロールベアラーなどの大型機械を保有せずに済むので、機械の初期投資や維持管理費などがかからず、十和田農場のような小規模な農場ではコントラクターへの移行によりコストダウンにもつながります。

6月7日にデントコーンサイレージ生産の第一歩である不耕起播種機での播種を行いました。今年は、デントコーン畑の移転・更新があったため、耕起・整地後の播種となりました。例年通り、生物環境科学科の実習も兼ねて行われ、北海道からはるるやっ



写真 1. 不耕起播種機



写真 2. 実習風景

てきた不耕起播種機についてメーカーの方から詳しく説明していただきました。

今年は、気候にも恵まれデントコーンはすくすくと成長しています。今後は、雑草対策や鳥害対策を施しながら成長を見守り、10月上旬に再度ヤンマーアグリジャパン株式会社へ委託し、デントコーンの収穫を行います。その後、2か月ほど嫌気発酵させ、冬のごちそうは牛たちのもとへ届けられることになります。



写真3. 播種直後のデントコーン畑



写真4. 6月30日のデントコーン畑

## 八雲牧場から

### 学部50周年記念式典へ参加

4月22日～23日にかけて学部50周年の記念式典に参加するため八雲牧場から小笠原助教、庄司職員、小野係長の3名で、22日には弘前大学の附属農場の弘大アップルビーフを見せていただきました。23日の記念式典には、八雲牧場中井係長も記念式典のみに参加して、大村先生の講演もあり大変貴重なお話を聞かせていただきました。祝賀パーティでは北里八雲牛のローストビーフとネギバラ焼きが振る舞われ喜んでいただきました。

ご退職された教職員の方々ともお会いすることができ大変楽しいひと時を過ごさせていただきました。



## 放牧開始！

今年も牛たちの幸せな時期が訪れました。長い雪の季節を終え、待ちに待った放牧の季節です。この日（5/13）に向け職員も場内の牧柵設置に力を注いできました。

また、11月の降雪前に元気で帰ってきてくれることを願いながら、放牧を開始しました。5月13日を皮切りに続々と牛舎から出ていきます。今年からは北里八雲牛を八雲町のブランド牛として位置付けるため増頭に向けて町内育成牧場へも放牧を預託しました。



## 「大学は美味しい」フェアへ参加

今年も、5月26日から6月1日の期間、高島屋新宿店で第9回「大学は美味しい!!!」フェアが開催され、八雲牧場からは前日準備の5月25日から29日まで小野が参加してきました。

今年もたくさんの方がいらっしゃってくださいましたが、多く尋ねられたのは「塩分はどの程度ですか?」ということでした。草熟北里八雲牛が安全・安心であることはわかかっていても商品の塩分含有量がわからないため躊躇されているようでした。今後は塩分表示なども店頭で表示できたらよいのかもしれませんが。

福香ビールも好調に売れていました。このような催事に対し一生懸命取り組んでくださっている広報課の皆様、5月28日から最終日まで参加してくださいました獣医学部事務室の森様に感謝いたします。



## グラスサイレージの収穫

今年の越冬用飼料グラスサイレージ(GS)のバンカーサイロ用の収穫が、6月6日から7日にかけて行われました。GS収穫は、現在コントラクター（農業作業委託業）を利用して行われていますが、この作業は昔から変わらず牧場の一大イベントです。コントラクターの利用により早期密封が可能となり、とても品質の良いものが出来上がりますが、バンカーサイロに詰め込むのが間に合わないくらいダンプトラックが刈り取った牧

草をどんどん運んできます。

今年も、2日間、作業時間で言えばほぼ1日で収穫が終わっているため、とても品質の良いものができるのではないかと思います。



### 臨時職員の歓迎会

6月30日に、今年度八雲牧場に採用された臨時職員の歓迎会を行いました。

牛の生産管理担当の工藤翔太郎さん、生薬担当の北川紀子さん、研究補助担当の石井絵里さんの3人を迎え、ますます賑やかになりました。新しい風を入れていただき、今後も職員一丸となり、八雲牧場を盛り上げていきたいと思ひます。

(編集担当：畔柳 正)